

## 海溝付近の地震活動の静穏化とやや深発地震の活発化の同期現象

Seismic quiescence around trench synchronized temporally with activation of intermediate-depth earthquakes

# 勝俣 啓[1]; 笠原 稔[1]

# Kei Katsumata[1]; Minoru Kasahara[1]

[1] 北大・理・地震火山センター

[1] ISV, Hokkaido Univ

海溝近くの浅発巨大地震の発生前にその内側で大きな深発地震が起きたという報告がある[例えば, 茂木(1972), Mogi(2004)]。これは浅発巨大地震に先行して深発地震活動が活発化したことを意味する。2003年9月26日に発生したマグニチュード(M)8.0の十勝沖地震の約5年前から本震のアスペリティ付近の微小地震活動度が44%低下していた[勝俣・笠原(2003)]が, やや深発の微小地震は逆に同時期から増加していたことが分かった。これは活発化が大きな深発地震以外に, やや深発の微小地震にも及んでいたことを意味する。また浅部と深部で時間的にほぼ同時に変化が始まっている点も重要である。さらに十勝沖地震の前と同様な同期現象が2000年5月頃から根室半島付近で開始し, 現在進行中であることも判明した。これは根室半島沖の地震の前兆現象である可能性がある。